

関東の大学生が寸劇 「水戸黄門」を披露 田辺の高齢者施設

桜美林大学（東京都、神奈川県）の学生有志でつくるグループが26日、田辺市たきない町の高齢者複合福祉施設「たきの里」を訪れ、合唱寸劇「水戸黄門」を公演した。観賞した約50人のお年寄りや、学生と一緒に歌って楽しんだ。



歌やダンスを織り交ぜた寸劇をお年寄りらに披露する桜美林大学の学生
(田辺市たきない町で)

だ。上富田町教育委員会がグループを招いた。1〜4年の男女11人が出演した寸劇は、越後屋と悪代官の悪巧みを知った水戸黄門の一行が懲らしめる、というお

決まりの物語。ドラマの主題歌「ああ人生に涙あり」や「ふるさと」といった歌やダンスを織り交せていた。印籠を出して「この紋所が目に入らぬか」というドラマの名ゼリふは、最前列で観賞していた入居者の男性が飛び入り出演して語り、会場を沸かせた。約1時間の寸劇が終わると、お年寄りたちは「よかったよ」などと学生に声を掛け、大きな拍手を送った。

公演を見に来てもらうのではなく、地域の学校や施設に出向く取り組み。桜美林大の学生が紀南へ来るのは4回目。今回は「たきの里」を含め、3月1日まで田辺西牟婁地方の福祉施設7カ所を回り公演する。

1日午後2時から、上富田町朝来の上富田文化会館で一般向けの公演がある。無料。問い合わせは町教委（0739・47・5930）へ。